

平成 24 年度 東京都写真美術館自主企画展

川内倫子展 照度 あめつち 影を見る

KAWAUCHI Rinko: Illuminance, Ametsuchi, Seeing Shadow

会期：平成 24 年 5 月 12 日（土）～7 月 16 日（月・祝）57 日間

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社

助成：アサヒビール芸術文化財団

協賛：富士フイルム株式会社／東京都写真美術館支援会員

協力：アサヒビール株式会社／スガアート／フルハウス／Fondation d'entreprise Hermès

後援：サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI EXPRESS

会場：東京都写真美術館 2 階展示室



無題 シリーズ《あめつち》より 2012

【展覧会概要】

東京都写真美術館では、2000 年以降の時代を代表する写真家として若い世代を中心に支持され、国際的にも活躍する川内倫子の個展「照度 あめつち 影を見る」を開催します。首都圏の美術館で初めての個展となる本展は、作家の代名詞となる写真スタイル、6×6cm のフォーマットによる近作の写真シリーズを中心とした《Illuminance》（イルミナンス）、そして初公開となる最新作《あめつち》《影を見る》をご紹介します。

川内が約 15 年をかけて撮りためたシリーズ《Illuminance》は、彼女の原点となるシリーズ《うたたね》（2002 年木村伊兵衛写真賞受賞作）で見られた、私的な日常光景を切り取り普遍的な生命の輝きへと昇華させる表現がさらに深化していきます。数々の瞬間の光景のなかに光と闇、生と死、美しさと悲しさが交錯し、作家独自のイメージの世界が空間的に展開します。大型写真作品と映像作品による新作シリーズ《あめつち》《影を見る》は、早春の阿蘇の野焼きをはじめとする地球上の様々な事象をとおして、天と地をつなぐものや始原の光景という宇宙的な広がりをも直観的に描き出すものです。4×5 インチの大判カメラで撮影され、約 2m 幅の大サイズでプリントされる写真作品や大画面による体感的な映像のプレゼンテーションは、これまでの川内倫子の作品には見られないスケールの大きな世界観を反映しています。本展は約 80 点の展示構成によって、川内倫子の作品世界の魅力と本質、そして新たな展開にせまるものです。

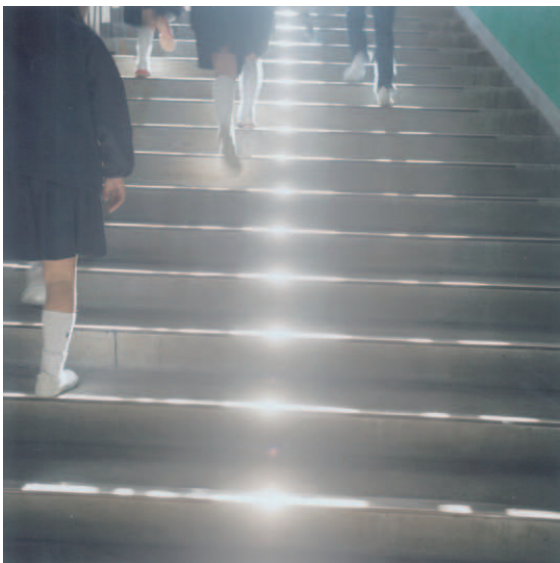
【出品作品】

《Illuminance》（イルミナンス）約 60 点のオリジナルプリントと映像作品

川内倫子作品の代名詞となる写真スタイル、ローライフレックス 6×6cm のフォーマットによる写真シリーズ。イルミナンスは光の「照度」。その日の気持ちで同じものが玉虫色のようにいろんな色に見える、世界はいろんな見え方をするという意味がタイトルには込められています。

Aperture 社と Foil の共同出版により 2011 年刊行された同名の写真集から、本展のために空間的インスタレーションとして再構成されます。断片的な日常世界の瞬間、瞬間から普遍的な美を写し出す川内の作品世界は、2001 年の写真集デビュー当時から一貫しています。約 15 年をかけて撮りためた作品から選び抜かれたイメージの数々は、光をとらえる、時間を超越するという写真の本質にたえず立ち帰りながら、より純度の高い視覚性へと到達しています。

同名の映像作品とコンタクトプリント作品もあわせて展示し、多面的にその魅力をとらえます。



無題 シリーズ《Illuminance》より 2007



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009

わたしたちは忘れる それは生き残るための術のひとつ
きのう川沿いに立ち夕日を飽きずに眺めた
それは確かであって曖昧な過去 過去と自分をつなぐもの
時間の流れに唯一対抗できるもの
偶然と必然の組み合わせ 10年前と1年前のハーモニー
ただそこにあるものと向かい合う 畏怖 *¹



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009



無題 シリーズ《Illuminance》より 2007

《あめつち》新作シリーズ 約 15 点のオリジナルプリントと新作映像作品

《影を見る》新作映像作品

熊本県阿蘇山で古くから行われる早春の行事である「野焼き」を撮影した時、はじめて自分が星の上に立っているという感覚を得たという川内の体験から始まり、壁に向かって祈る人々の光景、プラネタリウムの夜空に描き出された光の軌跡、神に捧げる舞の儀式といった地球上の様々な事象をつないで、宇宙的な広がりを見せる新作シリーズ。写真は 4×5 インチの大判カメラで撮影されており、これまでの作品と異なるアプローチをとっています。

ここでは二つの新作映像作品を展示します。20 分かけてゆっくりと燃えていく山をとらえた《あめつち》、一年のうちの決まった季節、決まった時間に現れる渡り鳥の群れの飛行をとらえた《影を見る》は、定点観測的な視点から撮影され、未知なる自然のサイクルやリズムを体感することができます。

新たなステージへと向かう作家の関心は、天と地をつなぐものや始原の光景という宇宙的な広がりに向かっており、それは自らの写真行為の意味を捉え直す試みでもあります。

新作シリーズでは川内倫子の新境地が開かれます。



無題 シリーズ《あめつち》より 2012



無題 シリーズ《あめつち》より 2012

広大な宇宙のなかの、そのうちのひとつの星の地の上で、はじまりについて思いを馳せる。
地は天を映す鏡。鏡を写す写真。天と地をつなぐもの。
闇が底をつくとき光がやってくる。^{*2}



無題 シリーズ《あめつち》より 2012



無題 シリーズ《あめつち》より 2012



無題 シリーズ《あめつち》より 2012



映像作品
《影を見る》より 2012

【作家プロフィール】

1972 年滋賀県に生まれる。2002 年『うたたね』『花火』（リトルモア刊）の 2 冊で第 27 回木村伊兵衛写真賞を受賞。主な著作は他に『AILA』（04 年・フォイル刊）、『the eyes,the ears,』『Cui Cui』（共に 05 年・フォイル刊）11 年『Illuminance』を世界 5 カ国で同時出版（日本版はフォイル刊）。09 年 ICP（International Center of Photography）主催の第 25 回インフィニティ賞芸術部門受賞。国内外で個展・グループ展多数。

【関連イベント】

対談：内藤礼（現代美術作家）× 川内倫子 日時：2012 年 5 月 25 日（金）18:30-20:00

会場：1 階ホール（定員 190 名）

対談：原田郁子（音楽家）× 川内倫子 日時：2012 年 6 月 22 日（金）18:30-20:00

会場：1 階ホール（定員 190 名）

イベント詳細は当館ホームページ（<http://www.syabi.com>）をご覧ください。

【担当学芸員によるフロアレクチャー】

会期中の第 1・第 3 金曜日 14 時より担当学芸員による展示解説を行います。

本展覧会チケット（当日消印有効）をお持ちの上、2 階展示室前にお集まりください。

【展覧会カタログ】

新作を中心とした出品作品、川内倫子インタビュー、担当学芸員によるテキスト等が掲載された展覧会カタログを刊行します。青幻舎より刊行予定 B5 変形版 価格未定

【開催概要】

展覧会名 川内倫子展 照度 あめつち 影を見る

会 期 2012 年 5 月 12 日（土）～2012 年 7 月 16 日（月・祝）

会 場 **東京都写真美術館** 2 階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099

開館時間 10:00～18:00（木・金は 20:00 まで）※入館は閉館の 30 分前まで

休館日 毎週月曜日（ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）

観覧料 一般 700（560）円／学生 600（480）円／中高生・65 歳以上 500（400）円

※（ ）は 20 名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第 3 水曜日は 65 歳以上無料

交通機関 JR 恵比寿駅東口より徒歩 7 分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩 10 分

※当館には専用の駐車場がありません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

【お問い合わせ】東京都写真美術館 事業企画課

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033

展覧会担当：石田哲朗 tishida@syabi.com 田坂博子 h.tasaka@syabi.com

広報担当：久代 明子 a.kushiro@syabi.com 平澤 綾乃 a.hirasawa@syabi.com

前原 貴子 t.maehara@syabi.com